

ASAHIZA

九州初上映、監督来鹿。

南相馬の閉館した古い映画館「朝日座」をめぐる人々のドキュメンタリー。震災以降も街に残り暮らし続ける人、街を離れて暮らす人などへ「朝日座を知っていますか」と問いかけるインタビュー、また、インタビューを受けた人々、東京からエキストラとして参加した人々が、往年の賑わいを取り戻した映画館の中で、この映画をみる一日を記録した。映画館が繋ぎ続ける映画の記憶、街の記憶、人の記憶が甦る。

ASAHIZA 人間は・どこへ行く

● 監督
藤井光
Hikaru Fujii

● 音楽
大友良英
Yoshihide Otomo

● 製作
ASAHIZA製作委員会
文化なしごと人コンソーシアム
一般社団法人コミュニティシネマセンター
合同会社 keo LLC
NPO法人20世紀アイカイズ仙台
有限会社コンテンツ計画
ジャパンフィルコミッション
朝日座を楽しむ会

● 配給
一般社団法人コミュニティシネマセンター

● 支援
公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』 連続上映会＋トーク・ディスカッション（入場無料・申込不要）

【主催】科学研究費補助金(研究活動スタート支援)(研究課題番号：26880017)

「映画・映像メディアに関する地域ネットワーク型アーカイブ学の基盤形成」(研究代表者：中路武士)

2015年5月9日(土)
鹿児島大学法文学部1号館201教室
開場13:30～ 上映開始14:00～
トーク・ディスカッション15:30～
藤井光 × 中路武士
『ASAHIZA』監督 × 鹿児島大学准教授

2015年5月10日(日)
川内まごころ文学館多目的映像ホール
開場13:30～ 上映開始14:00～
トーク・ディスカッション15:30～
藤井光 × 中路武士
『ASAHIZA』監督 × 鹿児島大学准教授

鹿児島大学 学術研究院 法文教育学域 法文学系 中路武士研究室
tel/fax: 099-285-8909 e-mail: nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

非日常であろうと日常を生きる「普通の人々」を描かねばならない、この明るさというか、柔らかなものを表現することが、原子力発電所の事故によっていろんなものが破壊されていく現実に対する報服になるのではないかと

藤井光

福島県南相馬市原町区、「朝日座」。
劇場をめぐる観客たちの九〇年の物語。



ASAHIZA

人間は
どこへ行く



朝日座は、福島第一原発から30km圏内、福島県南相馬に大正12年関東大震災の年に開館した木造劇場です。当初は芝居小屋として、そして映画館として、街の人々から親しまれましたが、街の衰退とともに閉館。しかし、人々は、この劇場の歴史をしらべ、手入れをして映画上映や公演などに活用しながら、映画館として再生を模索してきました。そんな時、大震災とともに、原発事故がおこります。静かな地方の街は、この街までは人が日常を暮らすことができる、できない、暮らせると暮らせないを隔てる国境の街になっていたのです。

この映画は、地震や原発事故についての映画ではありません。朝日座という劇場をめぐる人々の記憶をたどるドキュメンタリーです。何代もつづく商店があり、戦国時代から江戸にかけての騎馬武者の歴史を色濃く残す土地に暮らす人たち。そうした土地に根付いた人たちの暮らしにカメラは入り、朝日座についてのインタビューを行います。そしてまた、南相馬を離れた大きな街で暮らす若者たちにも、カメラを向けます。原発で移住したもの、震災とは無関係に街に出たもの。

そして、朝日座について語る人々を撮影した映画を、朝日座で上映します。映画に出演した人々やその家族、友人たちなど南相馬の人々に加え、東京からバスに乗って、朝日座と南相馬周辺を見学するツアーの人々が合流して、上映会が行われます。

朝日座という劇場についての映画を通じて、朝日座に、人々が集まる。それは、インタビューで語られる往年の映画館の賑わいを思わせる瞬間でもあります。歴史をもった映画館は、きびしい現実のただ中にある人々にとって、映画や街の記憶で人々の心を繋ぐ特別な場所であり、これからの人々の未来を照らす灯台のようでもあります。

ASAHIZAという映画を通じて、朝日座というひとつの劇場、南相馬という地域から、日本の、そして、人間の未来は、どこに向かうのか。答えのない問いかけが、この映画のすべてのディテールに内包されています。

立木祥一郎（『ASAHIZA』プロデューサー）

トーク・ディスカッション プロフィール

藤井 光（ふじい ひかる）

1976年東京都生まれ。美術家／映画監督。パリ第8大学美学・芸術第三博士課程DEA卒。自然災害を含む、政治的、経済的、精神的な痛みを被る人間の危機的な状況において、芸術表現は何処へ向かうかを問い続けている。その多くは固定カメラで撮影される静的な映像で、映画と現代美術の区分を無効にする活動を国内外の美術館・映画館で発表している。前作『プロジェクト FUKUSHIMA!』（2012年）は国立近代美術館に所蔵されている。

中路 武士（なかじ たけし）

1981年熊本県生まれ。鹿児島大学学術研究院法文教育学域法文学系准教授／明治学院大学教養教育センター非常勤講師。東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。映画論・映画史を中心に、映像文化とテクノロジーについて研究している。また、デジタル・メディアの可能性を、表象と技術、芸術と社会の相関関係に着目しながら考察している。

『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』2013年 | 74分 | カラー | ブルーレイ

監督：藤井光

音楽：大友良英

製作：ASAHIZA 製作委員会（文化なしごと人 コンソーシアム [一般社団法人コミュニティシネマセンター / 合同会社tecoLLC / NPO 法人20 世紀アーカイブ仙台 / 有限会社コンテンツ計画 / ジャパン・フィルムコミッション]）、朝日座を楽しむ会

配給：一般社団法人コミュニティシネマセンター

支援：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団